

製品名: Na⁺/K⁺-ATPase α1 (リン酸化 Tyr260) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05813**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	115kDa

抗原情報

遺伝子名	ATP1A1
別名	Sodium/potassium-transporting ATPase subunit alpha-1 (Na ⁺)/K ⁺ ATPase alpha-1 subunit (EC 3.6.3.9) (Sodium pump subunit alpha-1)
遺伝子 ID	476.0
SwissProt ID	P05023
免疫原	ヒト Na ⁺ /K ⁺ -ATPase α1 由来の合成リン酸化 (リン酸化 Tyr260) ポリクローナル抗体

背景

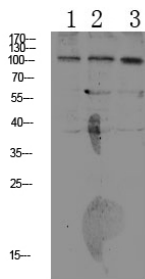
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、P型陽イオン輸送ATPaseファミリーおよびNa⁺/K⁺-ATPaseサブファミリーに属

します。Na⁺/K⁺-ATPaseは、細胞膜を横切るNaおよびKイオンの電気化学的勾配を確立および維持する役割を担う膜貫通タンパク質です。これらの勾配は、浸透圧調節、様々な有機および無機分子のナトリウム共役輸送、神経および筋肉の電気的興奮性に不可欠です。この酵素は、大きな触媒サブユニット（アルファ）と小さな糖タンパク質サブユニット（ベータ）の2つのサブユニットで構成されています。Na⁺/K⁺-ATPaseの触媒サブユニットは、複数の遺伝子によってコードされています。この遺伝子はアルファ1サブユニットをコードします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。RefSeq提供、2009年5月,触媒活性: ATP + H₂O + Na⁽⁺⁾(In) + K⁽⁺⁾(Out) = ADP + リン酸 + Na⁽⁺⁾(Out) + K⁽⁺⁾(In),機能: これは活性酵素の触媒成分であり、ATPの加水分解と細胞膜を介したナトリウムイオンおよびカリウムイオンの交換を触媒します。この作用により、ナトリウムイオンとカリウムイオンの電気化学的勾配が生成され、さまざまな栄養素の能動輸送に必要なエネルギーが供給されます。PTM: Tyr-10のリン酸化はポンプ活性を調節します。類似性: 陽イオン輸送ATPase (P型) ファミリーに属します。類似性: 陽イオン輸送ATPase (P型) ファミリーに属します。IIC型サブファミリー。細胞内局在: 質量分析により、ステージIからステージIVまでのメラノソーム分画中に同定される。サブユニット: α (触媒)、β、γの3つのサブユニットから構成される。HLAクラスII組織適合抗原DR1に結合する。

研究分野

心筋収縮、アルドステロンによるナトリウム再吸収

画像データ



1 A549
2 MCF-7
3 HCT116

各種溶解液のウェスタンブロット分析。抗体は1000倍に希釈した。二次抗体は1:20000倍に希釈した。